

特集

インテリア
プランナー
の仕事

Myビジネススタイル

インテリアプランナーって、どんな仕事をしている？
全国で活躍するインテリアプランナーの仕事ぶりをご紹介します。

file

11 インテリアプランニングに大切なのは 包括的な視点や総合性

寝台列車の総合デザインプロデュースに携わって



TWILIGHT EXPRESS 瑞風 ダイニングルーム
白と黒に色を絞り、アールデコの直線的・幾何学的なデザインで統一したフォーマルな空間。



「走るホテル」をつくる

「TWILIGHT EXPRESS 瑞風（トワイライトエクスプレスみずかぜ）」という山陰・山陽を巡る寝台列車（JR西日本）のデザインに4年近く関わりました。全体のデザインプロデュースとインテリアデザインです。後者の仕事はご想像の通りですが、前者のスコープは、エクステリアデザインの方向性を出すことや、サインデザイン、備品のセレクト、アートや伝統工芸品のセレクト、特別製作のアートの発注などのほか、立ち寄り駅舎や立ち寄りレストランの建築設計やインテリアデザイン、駅のホームのモニュメント、乗降時のゲート、ステーションナリー、ポスター、立ち寄り観光に使うバスの内外デザインに至るまで、あらゆるデザインをしました。全体をひとつの世界と捉え、運営につながるアイデンティティを求めたのです。これは私がインテリアプランナーだからできた仕事だと

思っています。インテリアデザインという狭い領域ではなく、ハードやソフト全体を見通し、どうあるべきかに方向性を打ち出し、クライアントの理解を得てそれを最後まで実行するように推進します。もちろん、すべてを一人でできるわけではありません。チームをつくってそれがよく機能するようにしました。

ものづくりに欠かせない 総合プロデュース機能

「建築」、「インテリアデザイン」といった領域は専門家をつくりだすのにはよいカテゴリー分けですが、全体を見通すことがおろそかになる恐れがあります。人々は生活環境を領域で分けて見ているわけではありません。すべてひとつつながりなのです。都市も建築も室内もテーブルの上も、すべてつながっています。しかしトータリティを求められても、そんなインターディシプリナリー（学際的）なことは学校で教えてくれません。専門を超

浦 一也さん

(うら かずや)
インテリアプランナー
浦 一也 デザイン研究室 主宰



《経歴》

1947年札幌生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。日建設計および日建スペースデザイン代表を経て、2012年より現職。世界のホテルの実測&スケッチを重ね、高いホスピタリティを求められるホテルや接遇施設等のプランニングに実績を重ねる。

《実績》

- ・日建設計飯綱山荘（1991）
 - ・日本銀行水川分館（1994）
 - ・O-HOUSE（2000）
 - ・京都迎賓館（2005）
 - ・TWILIGHT EXPRESS瑞風（2017）
- ほか多数

《受賞歴》

- ・インテリアプランニング賞特別賞（京都迎賓館）（2006）
 - ・JIDアワード2018スペース部門賞（TWILIGHT EXPRESS瑞風）（2018）
 - ・IDM TOKYO 2018アワード大賞（ガラスの茶室 雪花庵）（2018）
- ほか多数

《著書》

- 『旅はゲストルーム』（東京書籍・光文社）
- 『旅はゲストルームII』（光文社）
- 『測って描く旅』（彰国社）

えた力、コンセプトを生み出す力、包括的で総合的な企画力、合意を形成する能力などは単なるデザイナーを超えます。そしてそれは一朝一夕にはできません。

しかしインテリアプランナーには、包括的・総合的なことを進めようとする力が基本的にあるのです。専門を掘り下げることが大事ですが、隣の領域を深く理解しようとすることも大切なことです。まわりをよく見てこうあるべきだという考えを持つべきです。そしてそれがプロフェッションとして成立し、認められなければなりません。インテリアプランナーとして力の及ぶ範囲をどんどん広げていってほしいと思います。